



AA日本ニューズレター

〒100-91
東京都中央郵便局
私書箱916



AA 日本ゼネラル・サービス・オフィス
〒171 東京都豊島区池袋 2-23-3 橋ビル 9F

TEL03-3590-5377
FAX03-3590-5419



No. 56

AA日本常任理事会いよいよスタート

AA常任理事会常任理事が以下のように決定し、早速それぞれの担当分野で活動を開始しています。このニューズレターの紙面でも、新常任理事に選出された方を随時紹介させていただき、皆様に親しんでいただけたらと思います。どうぞ皆様、新常任理事会の活動に期待してください。

代表理事 岡崎直人(CW)(A類)
議長 山宮(B類)
財務 奥村(B類)
広報(専門家協力を含む)
盛岡 洋(医師)(A類)
出版 青山(B類)

病院施設(治療施設・矯正施設を含む)

池田(B類)

評議会 杉之尾(B類)

企画 今井(B類)

WSM前期評議員 湯浅(元中部北陸地域評議員)

A類:ノン・アルコールク常任理事

B類:AAメンバー常任理事

企画担当という役割を模索中

常任理事企画担当 今井

12月に常任理事会全体会議が開かれた際、私が4年間の任期中に担当させていただく役割は「企画担当」と決定した。

また、昨年まではJSO運営の責任をJSOオフィス運営委員会が引き受けていた。では今後はどこがその責任を引き継いでいくかは、3月の評議会で決定する予定だが、それまでの期間については全体サービス常任理事が担当することになり、そこで私がオフィス担当理事の役割も併せて任命された。

昨年の「全国代議員集会」で常任理事会設置案が全国代議員の投票により承認され、GSMで再検討を加え、日本AAの全体サービス構成が確立し、骨格はできた。だが、これから常任理事会が実際に機能していくための肉付け作業を試行錯誤しながらやっていかなければならない。まして、私の役割は「企画担当」と耳慣れない。「心細くなっちゃうよ!」と言われそうだが、まったく、私自身も何から始めたらよいのか分からないというのが本音である。だが、常任理事としての果たすべく責任は、「AAメンバーの役に立つことをする」ということからして、行動の目的は極めて明瞭である。

電話のベルがなった。「常任理事の役割をニューズレターに書いてください」との依頼だった。ありがたいことにこちらの思いどおりの都合ではことは動かず、どんどん仕事がかかる。

私が勝手にイメージする企画担当の役割とは、全国のAAグループのメンバーの声が評議員を通して常任理事会の耳にしっかりと届き、全体サービス活動が効率よく機能していくための橋渡しを企画していくことだと思っている。そこで、これから自分の責任を果たすべく行動を心にとどめおくためには、この依頼はよいチャンスだと思って書かせていただきます。

***全国のグループに全体サービスの情報を伝える責任**
:全国の地域・地区に足を運び、常任理事が果たす責任や情報を分かち合っていきたいと考えています。とにかく、何でもやってみる常任理事会の便利屋さんといった気持ちでいます。お気軽にご利用ください。

***全国のグループメンバーが要望した全体サービス活動を企画する責任**
:各地域から広く意見を求め、全体サービス活動に必要な行動計画(案)作りができたと思っています。

***評議会の自立**
:昨年まではゼネラルサービスミーティングでした。たしかに、真剣に議論し、全体サービスの今後について方針を打ち出してきました。ですが、その方針を具体的に実現させる常任理事が存在しない

ため、評議員からの報告を聞くグループメンバーの心中は満足できないが多かったと思います。しかし、今回からは評議会です。単なる呼称の変更ではなく、実際的な活動を討論し、実行に移していく場となってわけです。

当然、全国のグループメンバーの目は今回の評議会に注目していると思います。ですから、評議員と常任理事の責任はますます重くなってきました。その責任を果たすには評議会そのものが自立していかなければなりません。

たくさんの課題が山積みされたままです。これから一つ一つ解決していかなければなりません。そのためには、評議員、常任理事はもちろん、全国のグループメンバーの協力なしでは実現しません。生意気なことを言わせていただければ、私は今回、常任理事の推薦を受けたとき、このことを一番強く感じ、選ばれたら全力でこのことをやってみようと思っていました。

常任理事会は設置されました。ですが、船出は前途洋々ではありません。常任理事の活動予算はゼロ。結局何にもできない常任理事と言われたいために、知恵を絞ってできる限りの活動をしていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

JSO担当理事としての仕事は、評議会に提出する常任理事会活動計画書でお知らせさせていただきます。

『ゆっくりやろう』

地方常任理事 青山

地方常任理事としての私の役割は何なのか、何がやれるだろうか。期待と不安の気持ちで新常任理事会の会議に昨年の暮れに出席した。そこで出版委員としての役割が決まったものの、ここ数年、全体サービスから遠ざかり、文書出版の経緯も分からない。何か気が重い帰りの新幹線であった。

ここ2年ほどJSO運営が赤字のため、新刊書の発行がストップしている。再販引当金が累積赤字に充当されたこと等、大ざっぱにしか掴んでいないのが私の現状だった。

こんな状況の中、まず自分の書棚のAA出版物の案内書を片手に整理してみた。購入したはずだが見当たらない本、明らかに購入していなかった本やパンフ類もあり、地元の東北セントラルオフィスから取り寄せることにし、出版物の見直しから始まった。これが常任理事出版委員のスタートかと、何か心細くなったのも事実であるが1年生の新鮮さも沸いて来た。

新年を迎え、出版局というよりJSOの山本さんから「今日を新たに」の再販の準備の依頼があり、資料を元に、常任理事会のアドバイスや地元のメンバーの

力を借りて、出版委員会としての活動が始まった。委員会構想と「今日を新たに」の再販の件と同時進行していくうち、委員会構想のアウトラインらしきものができあがってきた。東北地域から4~5名、それに専門家も顧問として参加してくれることになった。

ここ数年の資料や出版局からの資料、委員会からの提案を検討していく中から新年度の事業計画をいくつかあげてみたい。

1. 新刊発行予定の“CAME TO BELIEVE (信じるようになった)”は翻訳が一応終わっているのですが、何とか年内に出版したい。(翻訳が終わっているものは他に数冊ある)

2. 出版物の販売促進、売れ行きの悪い本の在庫を含め、販売促進計画。

3. その他、BB,12 x 12の再販の検討、小冊子、パンフの再検討、AA出版物案内のカタログの作成。

計画実行したいことが山ほどあるが、とにかくできることからゆっくりやるしかない。出版委員会に多くのメンバーの知恵と力をお願いします。あなたの書籍の棚卸しもよろしくお願い致します。

地方のAAの活性化を

全体サービス常任理事 池田

ハンドブックの序文で「...われわれの第一の目的は、飲まないで生きること(ソプラエティ)であり、他の人達もソプラエティを達成するように手助けをすることである」と謳われている。また伝統5では「各グループの主要目的はただ一つ、まだ苦しんでいるアルコールにメッセージを運ぶことである」と述べられている。

ぐっしょりと寝汗をかいて、体が重く、酒が飲めなくなり、どうにもならなくなって、その2年前にお世話になった精神病院に駆け込んだ時、主治医から「自助グループへ通って回復しなさい」と県内で会合を開いているグループを紹介された。前の入院で懲りて通院で治療に入って半月程経った時、「今度の日曜日に病院にAAのメッセージが来るから話を聞きにいらっしゃい」と指示された。通院と例会通いだけで充分と思っていたのに、日曜日まで潰されるのかと思ったものの、家族(かみさん)に引っ張られて、ふて腐れてその当日病院に行った。今までなら「仕事が残っているから」という口実でキャンセルしたが、この時の状況ではそうもいかなかった。

主治医の挨拶のあと、AAメンバーが代わるがわる「自分の話」をしてくれた。集まった人数は20人位で家族が半分ぐらいいた。メンバーの話真剣に聞き入っているのは家族の人びとで、アル症と宣告された



自分は「何だ、こいつ等は！」という感じで冷ややかな目で眺めていた。

次の月もまた、AAメンバーのメッセージが来た。前月来た人が3人ほど含まれていた。今回もまたどこかの温泉地(当然酒が付く)で1泊して帰るんだろうと思っていた。それにしても2ヶ月連続して来るなんて、よほどの物好きか暇人なんだろうと推察していた。

それから、来るメンバーの顔触れは変わったが、毎月同じ日曜日の同じ時間にメッセージが続けられた。しばらくすると家族の中に変化が現われた。あの人は今は飲んではいないアル中らしいが、ウチの呑ん兵衛もあのようにになれるのかなあ、という期待が家族の中に生れてきた。

メッセージが11時30分に終わると、その場所で奥さん連中が持ってきた昼食を食べながら、ひとしきりアル中話に花が咲いた。自分にとってはこの時間にメンバーが話してくれることの方が素直に聞けたし、スーツと頭に入ってきた。このメッセージをきっかけにしてAAミーティングに通うようになったのだが、しかしいつかは必ずコントロールしながら飲めるようになる筈だという「私の方法」をまだ私は探し求めている。

半年ほど経った時、仲間に誘われてメッセージを届けに行った。今までの「聞く側」から反対の「聞いてもらう側」に立ったわけであるが、「私の方法」にこだわり、まだそれを捨て切れずにいる自分にとっては「嫌だなあ」というより「苦痛」だった。こんな自分を救い上げてくれたのは仲間だった。渋る自分に根気よく付き合ってくれてメッセージの大切さに気づかせてくれ、さらに仲間に会うチャンスを作ってくれ、サービスを通じて仲間に未永く会い続けられることも気づかせてくれた。仲間に会い続けていないと直ぐに「私の方法」に舞い戻ってしまう自分の性格を見抜いていたからだと思う。

「私の方法」に対するこだわりも薄らぎ、自分たちのグループのミーティング場を増やし、週間のミーティングの回数を増やす努力をグループメンバー全員で続けているが、いまだに1日1カ所まで週5日しか確保できていない。毎日1カ所のミーティングはいつ実現

することか。しっかりと続けていけば、いつの日か願いが叶えられる日がきっと来ると信じている。

関東の片田舎ではあるが、それでも自分たちの地区/グループはまだまだ恵まれているのかもしれない。大雪のために行きたくても出掛けられないとか、路面が凍結するようなこともほとんどない。熱暑で動くのも面倒というようなこともない。

上を見ても下を見ても切りがないが、AAの将来の展望を思う時、地方のAAの活性化を進めることが必要であり、適切な表現ではないかもしれないが「底上げ」を計ることで、より多くのアル症者が回復するチャンスをつかむことができることになるだろう。

メッセージを運ぶことと共に、関係者への広報もないがしろにできない大事なサービスである。関係者からのいろいろな要望に、迅速に適切に答えていくことも肝要である。これらを効率良く、効果的に進めていくために、経験のある、意欲のある仲間の手助けと知恵を拝借したい。

過去7回にわたってGSMが開催されている。これを経験した地域評議員が各地で活動している。自らを生かすためにサービス活動に積極的に取り組んで貴重なノウハウを積み重ねている仲間も全国にはたくさんおられると思う。この方がたをはじめとして、サービス活動に興味があり、やってみたいという意欲のある仲間を中心にした全国的なネットワーク作りを展開していきたいと考えている。

お互いが培ってきたノウハウ、情報を交換し、集約し合うことで、効果的なメッセージを届けることができるようにしたい。「第一のものを第一に」にして、「自ら生きて他を生かせ」をモットーにし、「あせらずにでもしっかりやろう」と思う。

地球村の郵便配達人として

WSM前期評議員 湯浅

今年1996年から20世紀最後の年まで4年間、ワールドサービスの評議員を務めさせていただくことになりました。

日本のAAが20周年の節目を通過し、成人としての責任ある一歩一歩を踏み進めつつあるなかで、多くの人々の献身によって約10年間続いてきたワールドサービスへの参加もたくさんの成果をあげてきました。一つのグループから見ると、世界全体サービスはまだ遙か彼方にあるような気がしますが、グループと世界サービスの距離はこれから次第に縮まっていくのではないのでしょうか。

日本の国内においては、サービス体系の骨格が完成し、グループ、地区、地域、全国、全世界というチャンネルができあがりしました。また、われわれの生活のあらゆる領域で国際化が急速に進んでいます。



国境を越えた人々の行き来が盛んになり、情報技術の革新が世界を一つに結びました。現在1年間に約1,400万人の日本人が海外へ旅行しています。多くの日本企業が外国に工場やオフィスを持ち、また日本にも多くの外国の人が働きに来ています。電話、ファックスは国内、外国同じ感覚で使えます。世界中の人がテレビの同じ映像を同時に視ています。コンピューターのネットワークは地球上のあらゆる場所を瞬時に繋ぎ、短時間に大量の情報を交換します。昨年の阪神大震災のおりには、地球の裏側の国々からさえ直ちに支援の救援物資と人が飛んで来ました。政治、経済、市民生活が地球全体を視野に入れて動いていく時代に入っています。地球が一つの村のようになってきたのです。

AAにははじめから国境がありません。また今まで空白の地域だったロシア、東欧圏にもメッセージが入るようになり、多くのAAグループが生まれたことが報告されています。アジアの国との交流も、熱心なメンバーを中心に行なわれており、昨年は第一回アジア・オセアニアのサービスミーティングが開かれました。地球規模の一体性、経験と力と希望の海を越えた分かち合いが、個々のグループで実感されるようになる日

も遠くないかも知れません。

ヨーロッパのある国でプログラムに参加し、そこでサービスの末端に連なった経験から言えば、AAの仲間の考えていることは、世界中同じような気がします。ミーティングで話されていることは、驚くほど、日本と同じようなことでした。どんな知らない国へ行っても、AAのメンバーはたちまち友達になってしまいます。

こうしてAA共同体は地球規模のものになりつつありますが、どんな時代になっても、主人公は一人一人のメンバーであり、まだ苦しんでいる一人一人の未来の仲間です。サービスの中心がそれぞれのグループにあることにも変わりはありません。

ワールドサービスの評議員として私にできることは、一人のメンバー、一つのグループと全世界のフェロシップとの連絡役、それぞれの声をできるだけ忠実に運ぶ郵便配達人のようなことだと思っています。

できるだけ多くのメンバー、多くのグループの意見に耳を傾けていきたいと思しますので、どうぞ宜しくご協力をお願いいたします。

神様、私にお与え下さい
自分に変えられないものを
受け入れる落ち着きを
変えられるものは変えて行く勇気を
そして二つのものを見わける賢さを

AA日本第一回評議会（仮称）

— 開催のお知らせ —

95年3月の全国代議員集会で決議され、今年度より発足することになったAA日本評議会（仮称）が、来る3月29日から31日の3日間、東京深川で開催されます。

昨年までは日本のAAが片肺飛行的で、AAのサービスを遂行していくうえで多くの支障があり、多数のメンバーの方々から評議会の発足が望まれ続けられ、ようやく第一歩が踏み出されました。

第一歩が踏み出されたといっても日本のAAではまったく経験のないこと、アメリカ/カナダの経験

を取り入れたくも、規模の点からいって現実の日本のAAには無理な所が多数感じられ、事務局（仮称）としてもまったく手探りの準備です。

常任理事会常任理事、全国評議員の方々の方々の力添えをいただきながら、何とか滞りなく開催されますよう、努力を続けているところです。

メンバーの方々も、地域の多くの要望に応じて選出され、出席された評議員に意見を託し、またその報告にご期待下さるようお願いいたします。